

年末が近づき、お酒のお誘いが増える時期です

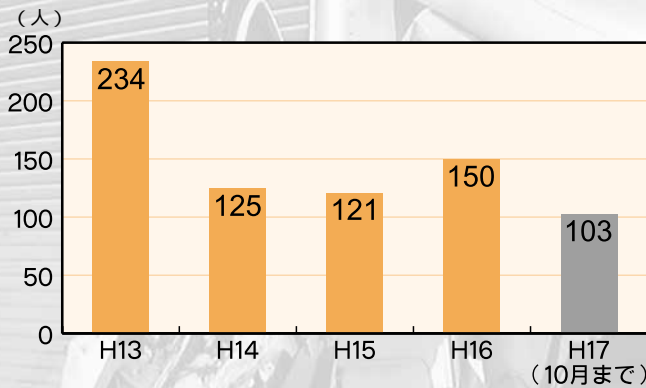
お酒を飲んだら運転は

絶対に「しない」「させない」

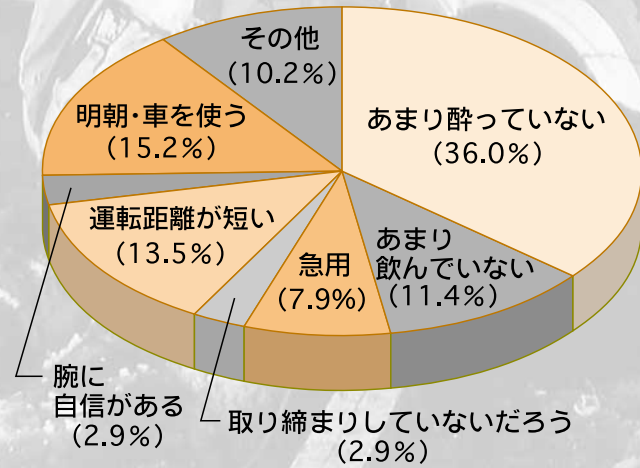


# 大館警察署管内の状況

## 飲酒運転検挙者数の推移



## 飲酒運転の理由



飲酒運転が、再び増えはじめています

交通事故の中でも飲酒運転による事故は、特に悲惨な結果を招きます。一つの事故が加害者と被害者を作り、当事者はもちろん、双方の家族の明日を奪ってしまふことにつながります。

平成14年6月に改正道路交通法が施行され、飲酒運転の罰則が厳しくなった後、全国的に飲酒運転による交通事故が大幅に減少しました。しかし、施行から3年が経過した今年上半年、その数は再び増加傾向を示し、関係者を心配させています。

大館警察署管内の飲酒運転検挙者数の推移(上のグラフ)を見ても、平成14年には前年の半分近くに減少していますが、それ以降だんだんと増加し始めています。今年も、10月末現在103件ですが、これから年末に向けてお酒を飲む機会が増えることから、まだまだ増加することが心配されます。

脳の機能をまひさせる

アルコール

百薬の長とも言われるお酒ですが、お酒に含まれるアルコールは、人体に強い影響を与える劇薬でもあります。

アルコールは強い麻酔作用を持ち、摂取することで脳の理性と感情、そして運動をコントロールする部分をまひさせてしまいます。その結果、一時的に開放的な気分になったり、足元がふらつくなど、体のコントロールが利きにくくなります。これが「酔った」状態です。

飲酒運転は死亡・重傷事故につながるやすい

酒に酔った状態で運転すると、速度超過、車間距離などの判断を誤り、危険を察知しブレーキペダルを踏むまでの時間が長くなるなど、大変危険です。例えば、ビールを大瓶2本飲むと、事故の可能性は7倍に増えると言われています。

全国で昨年発生した交通事故死亡事故は7,358件で、そのうち約1割に当たる710件は飲酒運転が原因です。飲酒運転が死亡・重傷事故につながる危険性は、通常の場合の2倍以上になると言われているのです。

なぜ飲酒運転をして

しまふのでしょうか

飲酒運転が危険であることは、免許保有者はもちろん子供でも知っているはずですが、なぜ運転してしまふのでしょうか。